



TITLE:

戦費調達問題(一)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 戦費調達問題(一). 経済論叢 1918, 7(1): 145-148

ISSUE DATE:

1918-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127396>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第七卷 第一號

大正七年七月一日發行

論說

剩餘價格ノ成立……………法學博士 河上 肇

相續稅批評ノ重點……………法學博士 神戸 正雄

扶養義務力救貧籍力……………法學博士 財部 靜治

さんぢかりずむ概論……………法學士 河田 嗣郎

黃宗義ノ政治經濟思想……………法學士 小島 祐馬

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係……………法學博士 田島 錦治

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ……………文學士 高田 保馬

時事問題

小口落禁止問題……………法學博士 戸田 海市

軍需工業動員法ニ就テ……………法學士 櫛田 民藏

雜錄

英吉利ノ豫算……………法學士 河田 嗣郎

南露ニ於ケル獨逸住民……………文學士 長 壽吉

かあらいるノ「過去及ビ現在」……………文學士 石田 憲次

戰費調達問題……………法學士 小島 昌太郎

戰費調達問題 (一)

小島昌太郎

Pigou 教授ハ其著 The Economy and Finance of the War ニ於テ、戰費問題ニ關スル根本概念トシテ、戰費金額 money costs of the war 戰争ニヨリ消盡セラレタルモノ things absorbed in the war 及ニ眞實ノ戰費 real costs of the war ノ三者ヲ區別スベシトナシ、其所謂戰費金額トハ政府豫算上戰費トシテ計上セラレタル金額ヲ謂ヒ、戰争ニヨリ消盡セラレタルモノトハ戰争ノ爲メニ用井盡サレタル人機械

雜錄 戰費調達問題 (一)

若シクハ生産物ノ働キ service ヲナ謂ヒ、眞實ノ戰費トハ是等入機械生産物ノ働キヲ戰争目的ニ用フルガ爲メ平和的生活ニ於テ缺クシ所ノモノヲ謂フトナス。* 此ニ紹介スル所ハ此ノ根本概念ヨリ出發シタルビ氏ノ戰費調達方法ニ關スル論ノ大意ニシテ、前掲著書ノ一部分ヲナスモノデアル。

國家ガ戰費ヲ調達スルニハ課税ト募債トノ二ツノ方法ガアル。募債ニハ又内債ト外債トガアル。乍併今回ノ如キ世界的大戰ニアリテハ、外債募集ノ範圍ハ極メテ狭ク、英國ノ如キハソノ戰費ノ大部分、殆ト全部ニ近キ大部分ヲ内債ト課税トニヨリテ調達シタルガ故ニ、此ニハ政府ノ戰費調達方法トシテハ之ヲ内債ト課税トニ限リ、而シテコノ内債ニ應募シ又ハ租税ヲ支拂フ個人ガ、ソノ納付資金ヲ作ルガ爲メ自己ノ私經濟ニ於テ探ル所ノ方法ガ、國民全體トシテノ眞ノ戰費負擔——國民經濟ノ戰費負擔——ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ觀察セントス。

一 諸テ英國政府ハ一九一五年度ニ十三億磅ノ戰費ヲ豫算ニ計上シタノデアアルガ、此金額ハ或意味ニ於テハ、實際戰争ノ爲メニ消盡セラレタルモノヲ表ハスト共ニ、又此モノヲ作ルガ爲メ社

第七卷 (第一號一四五) 一四五

* 其論ノ大意ハ本誌第六卷第六號ニ於テ『戰費トハ何ゾヤ』ト題シテ之ヲ紹介セリ。

會ガ犠牲ニ供シタルモノヲモ表ハス。何トナレ

バ政府ハ一方ニ於テ此金額ヲ社會ヨリ集ムルト共ニ他方ニ於テハ之ヲ戰爭目的ノ爲メニ支出スルカラデアル。從ツテ戰爭ノ爲メ實際消盡セラレタルモノノ額ガ定マルトキハ、社會ガ犠牲ニ供シタルモノノ額即チ本當ノ戰費タルモノノ額モ之ニヨリテ定マリ、國債應募若シクハ租稅支拂トシテ政府ニ納付スル金額ヲ國民ガ如何ナル方法ニヨリテ調達スルカハ、全ク此ノ本當ノ戰費タルモノノ額ニ關係ナキガ如クニ見ユル。換言セバ本當ノ戰費タルモノノ額ノ多少ハ、政府ニ資金ヲ納付スル各個人ガ、此ノ資金ヲ調達スルガ爲メニ、自己ノ富ノ如何ナルモノヲ節約スルカ、ソノ節約スルモノノ種類如何ニヨリテ異ルモノニアラザルガ如クニ見コル。世人ハ普通左様ニ考ヘテキル。乍併之ハ正確ナル見解デハナイ。十三億磅ト云フ政府豫算ノ裏面ニ存スル本當ノ戰費ノ多寡ハ、納稅者タリ應募者タル各個人ガ政府ニ支拂ヲナス爲メニ節約ヲナス所ノモノノ種類如何ニヨリテ甚ダシク影響セラレ得

ルノデアル。

今其理由ヲ述ブルニ當リ、説明ノ筋道ヲ明ニスルガ爲メ、納稅者タリ應募者タル個人ガソノ資金ヲ調達スル方法ノ中デ、此ニ述ブル所ニ直接關係ナキモノヲ先ツ除外シテ置カネバナラヌ。ソレハ資金調達ノ爲メニ犠牲ヲ納金者自ラ直接ニ全部若シクハ一部分負擔セズシテ之ヲ他人ニ轉嫁スルコトトナル調達方法デアル。例ヘバ恩給又ハ給料ヲ引下ケテ資金ヲ調達シ、若シクハ銀行ヨリ借財ヲナシテ之ヲ調達スルガ如キハ、資金ヲ本當ニ自ラ調達スルノ方法ニアラズシテ、之ヲ調達スルノ犠牲ヲ全部他人ニ轉嫁スルノデアル。又消費稅關稅等ノ課稅物體タル商品ノ消費ヲ節約シテ納付資金ヲ調達スルガ如キハ、調達ノ犠牲ヲ一部分他人ニ轉嫁スルコトトナル。何トナレバ、カカル商品ノ消費ガ減少セバ、從ツテ政府ノ租稅收入モ減少シ、之ヲ補フ爲メニ政府ハ更ニ他人ニ課稅スルコトトナルカラデアル。カクノ如ク納付資金調達ノ犠牲ヲ他人ニ轉嫁スルコトトナルモノハ、姑ク本論ニ於テ

ハ之ヲ除外シ、專ラ此犧牲ヲ納金者自ラ負擔スルノ調達方法ニ就キテ述ブル。

諸テ戰時稅ノ支拂若シクハ戰時債ノ應募トシテ政府ヘ納付スル資金ヲ調達スルニ付キ、納金者ガトル方法ノ如何ガ、國民全體トシテノ本當ノ戰費ノ多寡ニ影響スルノ理由ヲ説明スルガ爲メ、假ニ余ヲ以テ一千磅ヲ租稅若シクハ國債應募トシテ政府ニ納付スルモノト定ム。然ルトキハ政府ニ於テハ余ノ納付金ニヨリテ一千磅ニ相當スル生産物ナリ勞務ナリヲ買入ルルコトヲ得ベク、余ニ於テハ、コノ一千磅ノ資金ヲ如何ナル消費ヲ節約シテ調達シタルカニ拘ハラズ、ソレダケノ價值ヲ有スルモノヲ喪ヒタルコトトナル。從ツテ政府ノ得ル所ト余ノ喪フ所トハ、共ニ此ノ一千磅ニ相當スルモノデアツテ、之ヨリ多クモナク少クモナク確定的デアアル、ガ併シ政府ガ之レダケノモノヲ取リ上ゲタルニヨリ殘サレタル國民ノ眞ノ所得——貨幣所得ヲ以テ購ヒ得ル所ノモノ——ハカク確定的ニアラズシテ、余ガ納付資金ヲ調達スルニ付キトレル方法ノ如何ニヨリテ甚ダシク左右セラルルノデアアル。即

チ余ハ國民所得ニ何等影響ヲ及ボサザル方法ニ於テ納付資金ヲ調達シ得ベク、又余ガ喪フ所ト事實上同額ノ損失ヲ之ニ蒙ラシムル方法ニ於テモ調達シ得ルノデアアル。例ヘバ假ニ余ニ毎年一千磅ノ小銃彈ヲ娛樂ノ爲メ發射スルノ習慣アリトシ、余ガ納付資金調達ノ爲メ此ノ娛樂ヲ廢シテ其金ノ政府ヘ納付シタルトセンカ、此場合ニハ政府ハ余ヨリ得タル一千磅ヲ以テ恰モ余ガ平素購ヒタル銃彈ヲ購入スルコトヲ得ルデアラウ。然ラバ只一定量ノ銃彈ガ余ノ所有トナル代リニ政府ノ所有トナリタルニ止マリ、社會ノ他ノ人ニハ何等影響スル所ガナイ。乍併、反之、余ニ手工製ノ精巧ナルれえすヲ購フ爲メ毎年一千磅ヲ支出スルノ習慣アリテ、此ノれえすヲ作ル職人ハソノ手工以外全ク職業能力ナキモノトスル。而シテ余ハ納付資金ヲ調達スル爲メニ此ノれえすノ購入ヲ廢メタトスル。然ラバ余ニ於テ喪フ所ハ、實質上ニ於テハ、前例銃彈ノ場合ト全ク同一デアアルガ、此消費節約ノ爲メ社會ニ及ボス影響ハ前例ノ場合ト甚ダ相異ル。此ノ場合ニ於テハ、假定ニヨレバ、れえす職人ハ其勞働ヲ以テ政府ノ爲メニ盡スコトガ出來ナイ。

從ツテ彼ハ、余ガれえすノ消費ヲ廢シタル結果
手ヲ空シクシテ日ヲ送ルノ外ナイデアラウ。而
シテ政府ハ余ヨリ獲タル一千磅ヲ以テ、ソノ必
要トスル銃彈ヲ作製スル爲メニ、社會ノ平和的
產業ヨリ之ガ製作能力ヲ有スル職工ヲ奪フテ之
ニ當ラシムルニ相違ナイ。故ニ此場合ニ於テハ
政府ガ一千磅ノ銃彈製作勞働ヲ獲ル爲メニ、余
ガ同額ノ損失ヲ蒙ルノミナラズ、社會公衆モ亦
一千磅ノ勞働ヲ損失スルコトトナル。カクノ如
ク余ガ銃彈ニ於テ節約ヲナスモ、將タれえすニ
於テ節約ヲナスモ、余ノ喪フ所并ヒニ政府ノ得
ル所ニ於テハ共ニ何等ノ差異ナケレドモ、余以
外ノ社會公衆ハ、余ガ銃彈ヲ節約スル場合ニハ
何等ノ損失ヲ蒙ルコトナク、余ガれえすヲ節約
スル場合ニハ余ト同シク亦一千磅ノ損失ヲ蒙ル
コトトナルノデアル。

上述ノ事柄ヲ一般の理論ニ歸納シテ言ヘバ、
納付資金調達ノ爲メ納金者ガ人ヤ機械ノ働キ
services ヲ節約スルトキニ、ソノ人ヤ機械ガ政
府ノ戰爭目的ノ爲メニモ、納金者ノ平和的目的
ニ對スルト同一ノ價值アル働キヲナスモノナラ

バ、納金者ノコノ節約ニヨリテ社會ハ何等損失
スル所ハナイ。ガ、反之、戰爭目的ノ爲メニハ
全ク何等價值アル働キヲナシ得ザルトキハ、社
會モ亦納金者ノ損失ト同額ノ損失ヲ蒙ル。之ヲ
一層一般的ニ言ヘバ、カカル人ヤ機械ガ政府ノ
戰爭目的ニ對シテナシ得ル働キガ、之ヲ節約ス
ル納金者ニ對シテナス所ノ働キヨリモ價值少キ
トキハ、ソノ少キノ程度ニ於テ納金者以外ノ社
會ニ更ニ損失ヲ蒙ラシムルノデアル。故ニ政府
ガ國民ヨリ徵收スル金額ニヨリテ表示セラルル
本當ノ戰費ナルモノニハ、各納金者ガソノ納付
金ヲ政府ニ納付スルニヨリテ受クル損失ト社會
ガ之ニヨリテ受クル損失トヲ含ム。而シテ納金
者ノ損失額ハ、彼ガ今納付金トナセシ金額ヲ以
テ、從前享受シ得タル所ノモノニ對シテ認ムル
價值ニシテ、社會ノ損失額ハ、納金者ガ從前コ
ノ金額支出ノ目的トナシタルモノニ對シテ有セ
シ彼ノ評價ト、政府ガ戰爭目的ニ付キ之ニ對シ
テ有スル評價トノ差額——詳シク言ヘバ、此ノ
差額ニ當ル所ノモノヲ以テ納金者以外ノ社會ガ
從前享受シ得タルモノノ價值——デアル。